キャスターの小倉智昭さんが闘う膀胱がん
65歳以上の高齢者は注意、禁煙でリスク減

今回は、膀胱（ぼうこう）がんを取り上げます。俳優の松田優作さんや菅原文太さんがかつて患い、キャスターの小倉智昭さんが現在、治療を受けています。

膀胱は骨盤の中にあり、恥骨の後ろの袋状の臓器です。腎臓でできた尿を一時的にため、体外に排出する機能を持っています。膀胱の内面は尿路上皮という粘膜でおおわれています。膀胱がんのほとんどはこの上皮細胞が悪性化したものです。

膀胱がんの9割は65歳以上の高齢者に発症します。高齢化に伴い増加しており、年間2万人以上の人が膀胱がんと診断されています。男性に多く、女性の3～4倍です。

膀胱がんリスクの 1 位が喫煙で、半数は喫煙が原因と考えられています。たばこの本数と膀胱がんリスクは比例し、喫煙者も禁煙でリスクが下がります。

■特徴的症状は血尿

特徴的な症状は、痛みのない血尿（赤い尿で肉眼的血尿）です。ただ、しばしば頻尿や排尿痛もあり、膀胱炎と紛らわしいことがあります。また、健診を受けている人では目で見て血尿はないのに、検査で尿に血液が混じっているといわれることがあります。これも血尿で、「顕微鏡的血尿」といいます。膀胱がんの80%以上に血尿がみられます。がん年齢の方は血尿があれば泌尿器科受診を勧めます。

膀胱がん治療の原則は手術によるがん病巣の切除です。がん細胞が膀胱壁内で上皮を超え、筋肉に浸潤しているか、どうかで治療法と予後が大きく変わります。

幸い膀胱がんの 7 割は筋層に浸潤していません。この場合、麻酔下に尿道から内視鏡を入れ、がんを切除します。手術時間は1時間ほどで、数日の入院で済

みます。最近は、より確実にがんを診断し切除するため、蛍光を出す薬物でがんを光らせたり、特殊光で病変を明瞭にしたりする内視鏡を使うこともあります。

ただ、膀胱がんは早期でも再発しやすく、切除だけだと約半数が 2 年ほどで主に膀胱内に再発します。

そこで手術後、再発リスクが高い場合は、予防的に膀胱内に抗がん剤、または結核予防ワクチンの BCG を注入し治療します。適正に治療とフォローをすれば、表在性の膀胱がんで亡くなることはまれです。

がんが筋層に浸潤すると、基本的に膀胱を全部取る手術をします。最近では、この手術も体への侵襲が少ない腹腔鏡で行うことが多く、さらに進んでロボット支援腹腔鏡手術を行うこともあります。

この手術では膀胱がなくなるため、小腸の一部を使って袋状にし、膀胱の代わりにします。排尿はこの袋の一部をおなかの皮膚から「ストーマ」として出すか、袋を膀胱のあった場所に置き、尿道につないで行います。どちらにしても生活の質（QOL）が落ちます。

このため抗がん剤と放射線治療、手術を組み合わせて、膀胱を温存する治療が開発されつつあります。特定の条件を満たせば、この治療で膀胱の全摘手術と同じような予後が得られます。ただし、標準的治療ではありません。

膀胱を摘出した場合でも温存した場合でも、遠隔転移以外に残存膀胱や尿管、尿道などにがんが再発することがあります。定期的な検査とフォローは欠かせません。